

6年4組 外国語活動学習指導案

平成30年10月23日(火) 13:05~
 場所:外国語活動室(北舎2階)
 授業者:阿部 聖一

- (1) ねらい 自分がおすすめる国とその理由を伝える活動を通して、その国の魅力を詳しく伝えるためには、質問して相手の興味があることについて話すことが大切であることに気づき、意欲的に仲間と対話しようとする態度を育てる。
- (2) 評価標準 おすすめる国の魅力を伝えるために、相手の興味があることを質問している。【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】
- (3) 評価方法 相手の興味を探る質問をしておすすめる国の紹介をすることができたか「いいね」シールで相互評価する。活動での様子を観察したり、自己評価カードへの書き込みを見届けたりする。

1 単元名
 Hi, friends! 2 Lesson 5 "Let's go to Italy."

3 本時の展開 (5 / 5) T=教師 S=児童

2 指導の立場

(1) 教材観
 本単元では、世界10カ国を取り扱い、国旗、世界遺産、有名な物(食べ物、建物等)を学習する。そこには、世界の国々の特徴について新たな発見をすることができるよさがある。
 言語材料は、Where do you want to go? I want to go to~. You can see (eat / go to)~. に加え、世界の国名や世界遺産の名称、建物の様子や料理の味を表す形容詞である。単元終末活動である「おすすめる国の魅力を伝える活動」に向けて、既習の英語表現に慣れ親しみ、仲間と意欲的にコミュニケーションを図ることができる題材である。

(2) 児童観

(3) 指導観

本単元を貫く課題は、「おすすめる国とその国の魅力を伝えよう」である。本単元のねらいは、want to~を使って行きたい国について尋ねたり、紹介したりする表現に慣れ親しみ、おすすめる国の紹介をしたり、仲間の紹介を聞いて自分が行きたいか行きたくないか、その理由を答えたりすることである。

本時、相手に質問して興味があることについて話すよさに気付くことができるようにするため、おすすめる国とその理由を伝える活動の中でそれらを使って、進んで会話している姿を中間交流会で認め、価値付ける。また、つまずきを解決できるようにするため、Activity 1 で出てきた困り感や間違いをクラスで共有し、解決・確認する中間交流会を位置付ける。授業を通して、「質問をして相手の興味を探りながら英語を使っておすすめる国と魅力を紹介することができた。」という達成感を味わわせたい。

	学習内容および学習活動	指導・援助(★高め合うための指導・援助)										
つかむ	<p>1 Greeting ○挨拶する。(T⇔S)</p> <p>2 会話のやり取りを通して、本時の課題を把握する。 ・HRTとALTとのやりとりを見て、活動の流れとやり方をつかみ、課題を把握する。また、本時大切にしたい姿を理解する。</p> <p>相手から「いいね」と言ってもらえるようにおすすめる国とその国の魅力を伝えよう。 ~ 相手の興味があることを見つけながら ~</p>	<p><3つの見届けの一寒態を見届ける> ★児童が理解しやすいように会話の内容と本時大切にしたいポイントを簡単な絵と言葉でまとめ、具体的に視覚化する。</p> <p>【大切にしたいポイント】 ○質問をして、相手の興味を探る。 Do you like ~? / What do you like? / Can you ~?</p>										
深める	<p>3 Activities ○Activity 1 (ペア) ・2回インタビューを行う。</p> <p>【ポイント】相手の興味を探る質問</p> <p>A: Hello. Where do you want to go? A: Nice. I want to go to Italy. Do you like sightseeing? A: What do you like? A: You can see soccer games. It's fun. A: Let's go to Italy.</p> <p>B: Hello. I want to go to America. B: No. Sorry. B: I like soccer. B: Oh, nice! B: Yes, let's. +理由 (Sorry, next time.)</p> <p>○中間交流会 ・ねらい(本時のポイント)を達成している仲間の発表を見て、ポイントのよさを確認する。 ・定着していない英語表現を練習したり、質問して相手の興味を探しながら会話している姿を目指す姿として再確認したりする。困り感を共有し、表現の間違いがあれば解決したり、修正したりする。</p> <p>○個人化(個人確認) ・中間交流会後、仲間のよかった姿を取り入れる。表現の定着が不十分であったり、間違いがあったりしたところを修正して練習する。</p> <p>○Activity 2 (スクランブル) ・Activity 1とは別の仲間とスクランブル交流する。</p> <p>○中間交流会以降、本時のポイントを意識して会話できるようになったペアの発表を見て、本時の変容を確認する。</p>	<p>★ペア分けの際に、外国語活動が得意な児童とそうでない児童を意図的なペアで分けておく。苦手な児童は得意な児童の発話ややり取りから学び、2人で協力しながらActivity1に取り組めるようにする。</p> <p><3つの見届けの一学習状況を見届ける> ・本時の英語表現に抵抗があると思われる児童に寄り添い、共に発話する。 ・基本の言語材料が正しく使えているかどうか、本時大切にしたいポイントができていないかを見届け、確認する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">個の実態に応じた指導・支援</th> </tr> <tr> <th>児童のつまずきや様相</th> <th>指導・支援</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>おすすめる国について言えない児童、行ってみたい理由の言い方が分からない児童</td> <td>ペアの子に親と伝えたい内容を伝えてもらえるように指導しておく; また、お互いに言い方が分からなくて解決できないときは、ペアで話し合うように事前に指導しておく。</td> </tr> <tr> <td>基本表現への抵抗があり、自信がない児童</td> <td>基本表現や各発話等を一緒に発話して確認をとり、それでお互いの理解を促し、(大丈夫だよ)「ちつてもよ」と声をかけ、安心できるようにする。</td> </tr> <tr> <td>活動が進んでいる児童</td> <td>Good question! 等、児童の様子に応じた励ましをし、英語を使用している姿を褒め、さらに自信をもてるようにする。</td> </tr> </tbody> </table> <p>★中間交流会のあり方 ・ねらい(本時のポイント)を達成している児童の姿を紹介する。 ・基本表現を使って積極的に活動に取り組んでいる姿や、表現豊かに会話している様子をクラス全体に広げ、価値付ける。 ・Activity1の中で、何と言ったらよいか、こんなときはどうしたらよいかなど、困ったことを全体で共有し、できる限り児童の言葉から解決を図り、Activity2の活動で活かせるようにする。 ・HRTが児童の態度面を見届け、ALTは活動中に使われていた英語表現のよさを見届け、価値付ける。</p>	個の実態に応じた指導・支援		児童のつまずきや様相	指導・支援	おすすめる国について言えない児童、行ってみたい理由の言い方が分からない児童	ペアの子に親と伝えたい内容を伝えてもらえるように指導しておく; また、お互いに言い方が分からなくて解決できないときは、ペアで話し合うように事前に指導しておく。	基本表現への抵抗があり、自信がない児童	基本表現や各発話等を一緒に発話して確認をとり、それでお互いの理解を促し、(大丈夫だよ)「ちつてもよ」と声をかけ、安心できるようにする。	活動が進んでいる児童	Good question! 等、児童の様子に応じた励ましをし、英語を使用している姿を褒め、さらに自信をもてるようにする。
個の実態に応じた指導・支援												
児童のつまずきや様相	指導・支援											
おすすめる国について言えない児童、行ってみたい理由の言い方が分からない児童	ペアの子に親と伝えたい内容を伝えてもらえるように指導しておく; また、お互いに言い方が分からなくて解決できないときは、ペアで話し合うように事前に指導しておく。											
基本表現への抵抗があり、自信がない児童	基本表現や各発話等を一緒に発話して確認をとり、それでお互いの理解を促し、(大丈夫だよ)「ちつてもよ」と声をかけ、安心できるようにする。											
活動が進んでいる児童	Good question! 等、児童の様子に応じた励ましをし、英語を使用している姿を褒め、さらに自信をもてるようにする。											
まとめ	<p>○本時得た情報をもとに、どの国に行きたいかを決めてその国名を英語で書く。</p> <p>一番行きたい国を選ぶ I want to go to <u>America</u>.</p> <p>_____の国名を児童は4線に英語で書く。国名を黒板に示しておく。</p> <p>○選んだ国でできること(したいこと)を日本語で記入する。</p> <p>4 Comments ○本時の振り返りをして、本時の伸びを実感する。</p> <p>5 Greeting ○挨拶する。(T⇔S)</p>	<p><3つの見届けの一定着状況を見届ける> ・中間交流会以降に大切にしたいポイントができるようになり、伸びのあった児童を抽出して紹介し、全体で価値付ける。 ・本時のねらいに関わった振り返りができるように、振り返りカードを用意し、自己評価と振り返りを書くようにする。</p> <p>★教師が見つけた学び合いのよさを紹介したり、児童の振り返りカードから本時の伸びを実感した記述を価値付けたりする。</p>										

4 研究内容との関わり

【研究内容Ⅰ】
 ① 単位時間の課題の明確化
 必然性のある活動を単位時間や単元の出口の活動に設置する。各単位時間で学んできた英語表現や単語の積み上げが終末の活動(本時)で活用できるようにする。
 ② 導入・課題化の工夫
 質問や答え方等のやり取りの仕方をモデルとして示し、課題を明確化する。実際にやって見せることで、会話の流れをつかませる。その際、絵やイラストをiPadを使って提示し、思考の支援となるようにする。

【研究内容Ⅱ】
 ① 関わりへの必然性を生むための工夫
 ・あえて練習をせず、Activity 1に取り組む。その後、中間交流会で、困り感を共有し、全体で解決を図ることで、関わりへの必然性を生み出す。
 ・おすすめる国の紹介後、行ってみたいか尋ね、その理由を答えることで仲間と関わり合えるようにする。

③ 活動形態の工夫
 Activity 1では、紹介する活動を通して、英語表現や理由の言い方に慣れ親しみようとする。それを意図的なペアで活動することにより、分からないことを相談して問題解決に臨み、発音や表現に自信をもてるようにする。Activity 1では、このペア活動を生活班内で行い、普段からよく接したり、関わったりする仲間と一緒に表現の定着を図る。また、やり取りする機会を全員に平等に確実に保障するようにする。そして、Activity 2でも、さらに様々な相手と交流ができるように、スクランブル活動を位置付ける。英語を使用して仲間と関わる積極性や主体性を大切にしたい。

【研究内容Ⅲ】
 ① 評価の工夫(自己評価力の育成)
 相手が質問をしながら、興味のあることをすすめてきたから、その国に行ってみたくなった場合に、「いいね」シールを相手に渡す。そのシールが「魅力が伝わった」という相手からの評価となり、自信となる。また、終末に本時の伸びを実感する場として、児童が「できるようになったこと」を発表する時間を設け、仲間にも認められることで達成感や満足感を感じられるようにする。より自己の変容を実感できる時間にするために、自己評価カードを使って振り返ったり、本時学んだことやできるようになったことをクラスで共有したりする。